

理科研究部 2025年度 夏季合宿の報告及び感想

高校2年 小島 孝輝 顧問 荒井 賢一

<概要>

実施日：2025年7月31日～8月1日 実施場所：山梨県甲州市 大菩薩峠
宿泊地：大菩薩ヒュッテ



<夏季合宿報告>

夏季合宿を7月31日（木）～8月1日（金）の1泊2日で実施しました。夏季合宿は、天体観測と部員間のコミュニケーションを深めることを目的とした恒例行事で、理科研究部の一大イベントとなっています。本年度は高校2年生2名・高校1年生7名が参加しました。

1日目、私たちは標高約1700メートルに位置する宿泊地「大菩薩ヒュッテ」を目指して登山を開始しました。JR塩山駅から路線バスで約30分の距離にある大菩薩峠登山口より、一般向けハイキングコースを徒歩で進みました。登山中、天候にも恵まれ、無事に全員が登り切ることができました。



大菩薩峠登山口～上日川峠の登り

合宿1日目も猛暑日で、暑さに体力が奪われ苦労しましたが、標高が上がり涼しくなるにつれて皆の足取りも軽くなり、無事に登り切ることができました。道中では、疲れた子の荷物を他のメンバーが代わる代わる持ってあげたり、互いの体調を気遣って、ペースを合わせたりする場面が見られ、チームワークをより一層深めることができました。

大菩薩ヒュッテに到着後は小休憩を取った後、2年生を中心に近くの沢で観察をするグループと調理を担当するグループに分かれて活動を行いました。空き時間は皆で遊んだり、会話を楽しんだりと笑顔の絶えない時間でした。



夜も天候に恵まれ、辺り一面に広がる満天の星をのぞむことができました。さらに、幸運にも流れ星も見ることができました（写真を拡大すると、多数の恒星が写ってういるのを確認頂けます）。普段見ることのできない息を呑むような満天の星に、みんな圧倒され、自然の美しさを肌で感じることができました。また、山に生息する鹿の姿も見ることができ、貴重な体験となりました。

2日目は、早朝から大菩薩峠の頂を目指して登山を開始しました。台風の影響で雨雲が接近していましたが、峠に到達した時には天気は崩れる前の束の間の晴れ間が広がり、刻々と姿を変える雲海や昇りきっていない太陽、雄大な山々の姿を堪能することができました。ヒュッテに戻り朝食を食べた後には、科学観察として、大菩薩ヒュッテの近くを流れる姫の湯沢の水質調査をおこないました。測定にはパックテストを用いました。どの測定項目も極めて良い値を示し、この沢からヒュッテへ水を引いていることに納得しました。



大菩薩峠からの風景（2日目（8月1日）の朝）



姫の湯沢での水質調査

台風の影響によりその後雨に見舞われる可能性があったため、予定よりも2時間ほど下山の時間を早めました。それでも、使用したヒュッテ内の片付け・清掃を皆の協力により迅速に進めることができたため、上記の科学観測の時間も確保できました。

1日目の夕食（鍋＋ラーメン）と2日目の朝食（焼きおにぎり・味噌汁）は、事前にメニューを決めて分担して持ち寄り、調理担当のメンバーで協力して美味しい料理を作り上げました。

<夏季合宿全体を通しての感想>

私は二年連続での参加であったため、去年の経験を踏まえ、より充実した夏季合宿になるよう思案を講じました。去年改善点の多かった調理面に特に力を入れ、よりスムーズに且つ美味しい料理になるように工夫しました。本年度は特に安全性や後片付けにまで配慮したため、例年通り怪我や食中毒が無かったことに加え、複数人で行う必要があった準備や後片付けもスムーズに進みました。さらに、1年生が率先して手伝ってくれたこともとても頼もしく感じました。

台風の影響はありましたが、1日目～2日目の朝は天候に恵まれ、天体観測も無事に行うことができました。また、登山・下山中に雨に降られることも無く、より充実した合宿になったと実感しています。

私としてはこの合宿の魅力は大きく分けて2つあると思います。まず忘れてはならないのは、普段では感じることのできない自然の雄大さや美しさを肌で感じるができるという魅力です。満天の星や山頂からの景色などを体験することで、実際に登って良かったと実感しました。そして、何よりも部活の仲間たちと共に仲を深め合い、かけがいのない思い出を創ることができるという魅力があります。遊びや会話を通して交流を深めていくうちに、最初は名前がうる覚えだったメンバーでさえ、2日目にはすっかり打ち解け、楽しく会話を交わすようになっていました。道中では、理研らしい科学や物理の話から、お互いの趣味や中学時代の話まで様々な話が常に飛び交っていました。文化部ということもあり、大変だったと感じることも多々あったと思います。ですが、皆からは笑顔が溢れていて、楽しさの方が勝っていたと思います。

実際に後輩たちから「来てよかった」「もっとヒュッテに泊まって居たかった」「まだまだ皆と遊んだり話したりしていたかった」などの感想を聞くことができ、非常に嬉しく感じました。後輩たちには、今回得た関係や経験を活かして、これからの活動に取り組み、次の代の理研を創り上げて欲しいと思います。今年度の夏季合宿は、特に大成功に終わり、この素晴らしい伝統がこれからも受け継がれていくことを願っています。

